

宿根スターチス栽培における夏季の花茎摘除効果

平坦地の宿根スターチス栽培では、6～8月までに伸長してくる花茎を随時摘除することにより、11～12月の採花本数が株当たり約2本増加する。また、2年目も夏季の花茎摘除を継続することにより4～5月の採花本数が2.5本多くなり、1年目と同等以上に採花でき安定的に生産できる。

農業研究センター農産園芸研究所花き部 (担当者: 渡邊 功)

研究のねらい

平坦地の宿根スターチス栽培では、冬季の採花本数が少なく問題になっており、高単価が期待できる11月～3月の採花本数を増加させ、秋から春にかけて安定的に採花できる栽培技術の確立が望まれている。そこで、高品質な切り花が得られない6～8月に伸長してくる花茎を随時摘除することにより、11月以降の採花本数の増加を図り、宿根スターチスの安定生産技術を確立する。

研究の成果

- 1 夏季に伸長してくる花茎を随時摘除することにより、定植1年目株と2年目株ともに11～12月の採花本数が約2本/株増加する(表1)。
- 2 2年目も引き続き夏季に伸長してくる花茎を摘除することにより、翌年の4～5月の採花本数が無処理と比べて2.5本多くなり、1年目と同等以上に採花でき安定的に生産できる(表1)。
- 3 夏季に伸長してくる花茎を摘除することにより、2年で約100万円の粗収益の向上が見込まれる(表2)。

普及上の留意点

- 1 夏季の花茎摘除処理上の留意点
 - 1) 夏季の花茎の摘除は、花茎の伸長が確認できた時点で速やかに行う。
 - 2) 摘除後の脇芽が伸長しないようにするため、花茎の摘除は第1節下で行う。
- 2 1～3月の採花本数を増加させる目的で、夏季の花茎摘除処理後に秋季の仕立て本数を2～3本に制限しても1～3月の採花本数は増加しない。

表1 夏季の花茎の摘除が時期別採花本数に及ぼす影響（/株）

試験区	6～8月	9月	10月	11月	12月	1～3月	4～5月	合計
1年目無処理	1.2	0.3	0.7	2.1	0.1	1.7	2.9	9.0
1年目花茎摘除処理	0.0	0.0	0.0	3.3	0.7	1.4	3.2	8.6
2年目無処理	3.6	1.8	1.3	0.6	0.7	0.7	1.5	10.2
2年目花茎摘除処理	0.0	0.0	1.3	2.3	1.3	0.5	4.0	9.4

注) 平成11年3月26日定植。供試品種はブルーファンタジア100。
 1年目は9月1日に、2年目は8月31日に最終の花茎の摘除を行った。
 2年目は、それぞれ継続して処理した。

表2 夏季の花茎の摘除処理と粗収益の関係（千円/10a）

試験区	6～8月	9月	10月	11月	12月	1～3月	4～5月	合計
1年目無処理	181	63	216	895	52	865	864	3136
1年目花茎摘除処理	0	0	0	1405	364	712	953	3435
2年目無処理	544	377	400	256	364	356	447	2744
2年目花茎摘除処理	0	0	400	980	677	254	1191	3502

注) 粗収益 = 平成10～12年の平均単価 × 採花本数/株 × 2000株/10a